

令和元年6月26日現在

機関番号：32672

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2016～2018

課題番号：16K13448

研究課題名(和文) 障害のある子ども達に活動・参加意欲を芽生えさせるための、音楽形態の構築

研究課題名(英文) Development of musical forms for cultivating a desire to act and participate among children with disabilities.

研究代表者

中島 龍一 (Nakajima, Ryuichi)

日本体育大学・児童スポーツ教育学部・准教授

研究者番号：90553933

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究課題は『障害のある子ども達に参加・活動意欲を芽生えさせるための、音楽形態の構築』である。音楽療育を行なっている国内施設及びスウェーデンストックホルム近郊の施設で調査を行った所、「リズム形態の重視」が最も効果的であることに結論付いた。障害種別の枠を超えて一人ひとりの「個」を様々な角度から見つめ、その時の状態に合ったリズムを見極め、曲を選択して演奏したり共に歌ったりすることが参加・活動意欲に繋がり、自立支援に有効的であることが、実践調査から明らかになった。研究成果として、音楽療育現場で使用できる、様々なリズムで構成されている楽曲をピアノ等で演奏し易くした楽譜等を計11点出版・発売した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、福祉の分野に音楽を有効的に機能させようという考え方である。音楽の持つ感動や癒し等の機能を効果的に活用することにより、障害のある子ども達に活動・参加意欲を芽生えさせることができる。調査の結果、特に「リズム」に反応する子ども達が多くおり、打楽器を使用してリズム表現をすることで「楽しい・やってみたい・できた・嬉しい」と感じていた。音楽を用いてその心を育てていく「音楽療育」の研究は、集団よりも子ども一人ひとりの「個」を見つめ、そこにリズムを主軸とした音楽を介入させていくことが有効である。障害のある子ども達の自立支援においてさらなる深化が必要だと考える。

研究成果の概要(英文)：The research topic of this study is "Development of musical forms for cultivating a desire to act and participate among children with disabilities." Studies conducted at facilities providing music education in Japan and in suburban Stockholm, Sweden concluded that the most effective method was one that stressed rhythmic forms.

This practical study made it clear that identifying the individual nature of students from various aspects above and beyond the framework of their types of disability, ascertaining rhythms suited to the conditions at the time of practice, and choosing songs and singing them together were effective ways to support independence that led to a desire to participate and to act. As outputs from this study, eleven volumes were published of sheet music easy to play on the piano and other instruments, consisting of various rhythms for use in musical rehabilitation.

研究分野：ピアノ、音楽教育

キーワード：音楽療育 障害児 リズム 編曲 ピアノ 打楽器

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

音楽は人に感動や癒し、勇気を与え、心の奥深い所に浸透することができる。以下は、申請者が施設や保育所等を訪問した際に、音楽療育研究の必要性を強く感じた事例である。この体験を通して、障害のある子どもの自立支援のために音楽は有効であり、それに適合する音楽形態の解明は可能ではないかと考えるに至った。

知的障害者施設を訪問した時、唸りながら座っている男児(5歳)に対して設置してあったピアノで何曲か聴かせてみた。その中で単純な音構成の「きらきら星」を弾いた時、立ち上がって傍に寄ってきた。そこで、リズムや和音の変化を与えて弾いてみると、唸りながらも歌い出し、引きつりながらも笑顔で、感じるままに身体で表現しだした。

保育所を訪問した時、申請者の身体を全力で叩いてくる女兒(3歳)がいた。所長からはてんかん疾患があると聞いた。叩いた後も申請者の洋服を掴み離さないの、「どんな曲が好きかな?」と聞いてみた所、近くにあったピアノの鍵盤をガンガン叩き出した。そこで申請者は、女兒の隣で同じ様な激しい曲を弾いて聴かせてみた所、女兒も興奮して更に叩き続けた。今度は、高音でゆったりと「アメイジング・グレイス」を弾いてみると、暫くしてから鍵盤を叩くことを止め、じっと聴き入っていた。そして初めて口を開き、「チューリップを歌いたい」と言った。申請者は共に歌った。女兒は非常に楽しそうであった。それを見ていた所長は、「普段にない姿だ」と驚いた様子であった。

その他、障害のある子どもと音楽を介して関わる中で障害のある子どもに活動・参加意欲を芽生えさせるために有効な音楽の研究、すなわち、「音楽療育研究」の探究の必要性を感じた。

2. 研究の目的

音楽が専門である申請者が施設や保育所等を訪問した時の体験から、障害のある子どもの自立支援のために「どの様な音楽形態が有効であるのか」という研究と、その体系化の必要性を強く感じた。そこで、音楽と福祉の分野が一体化した「音楽療育」に着目した。

本研究では、研究協力者である福祉分野の専門家である田中博一氏(兵庫大学教授)、山山貴要江氏(兵庫大学教授)のアドバイスを得ながら、心身に障害のある子どもの自立支援に有効な音楽形態を調査・分析し、国際生活機能分類(International Classification of Functioning, Disability and Health)の考え方を基盤として論理付け、障害と適合する音楽形態を解明する。

3. 研究の方法

平成28年度は、多種に亘る音楽の中より、申請者の施設や保育所等での体験から効果が認められそうな曲の抽出を行い、療育上どの様な音楽形態が適合し得るのか、国内施設等において実践的調査を行う。

平成29年度は、前年度の調査データを基に、ICFモデルを適用した調査を前年度同様の施設等で行い、音楽療育システムの構築を行う。

平成30年度は、2年間の研究から得られた成果が、国外ではどの様な反応があるのか。申請者が先行研究として調査を継続している海外施設で比較検討を行い、障害のある子どもの自立に有効な音楽形態を解明する。

4. 研究成果

平成23年4月に「こども音楽療育士」の資格設置(一般社団法人全校大学実務教育協会認定)がなされたことを受け、音楽と福祉の分野が一体化した「音楽療育」に着目した。

第1年目の研究として、多種に亘る音楽の中から効果が認められそうな曲の抽出を行い、療育上、有効的な音楽形態について、国内施設において調査を行なった。調査対象施設は、兵庫県姫路市「社会福祉法人あいむ」グループである、「どんぐりの里」「児童発達支援センターたんぽぽ」「放課後デイサービスこすもす」の3施設である。この3施設は、専属の音楽療法士が勤務しており、独自のプログラムにより、障害のある子どもの自立に向けて音楽プログラムを展開している。調査対象が中々見つからない中で快諾をいただき、研究をスタートすることができた。3施設において、各2回ずつの調査を行なった。各施設の音楽療育プログラム内容や時間、展開方法は違ったが、音楽を通して子ども達が活動・参加意欲を持つ姿は十分に見受けられた。とうに、打楽器を使用してのリズムに反応する子ども達が多いことが観察できた。このことから、ひとつの曲を様々なリズムによる編曲等で子ども達に提供することが、音楽療育の重要な部分であると判明した。また、音楽療育者が様々な打楽器を有効的に使用できる技が必要であることも分かり得た。

第2年目の研究計画は、第1年目で取得できた障害への音楽介入の効果の調査データを基にICFの「活動と参加」から選択した4項目に基づく分析を行い、障害への音楽介入の環境要因を論理付けることであった。しかし、第1年目の研究を更に深めるために、先行研究として行なっていたスウェーデンでの音楽療育調査と比較することが、本研究にとって有益であるという考えに達した。そこで、平成30年2月16日(金)~22日(木)の間、スウェーデンストックホルム近郊の障害者施設等において、日本における音楽療育との比較調査及び担当教員へのインタビュー調査を行った。重度の知的障害者及び身体的障害者更生施設(EkbackenDagcenter.Ekbackensgrand 6B 172 37 Sundbyberg.)における調査と音楽療育研修、ソルナ市の親切カルチャースクール(Solna Kulturskolan:Blomgatan 3, 169 60 Solna.)での授業研修、討論会である。施設訪問スケジュールのコーディネート及び通訳は、スウェーデン在住50年以上の福祉専門アドバイザーの澤野正美に依頼した。スウェーデンでの音楽療育は、日本のそれよりも「個人と家族」の関わりが深く、それらを取り入れた音楽療育モデルプログラムを構築していくことは、非常に有益であると感じた。

最終年度計画は、今までの研究データから「障害のある子ども達が好むリズム」に焦点を当て、それらのリズムが多く含まれる楽曲の楽譜を発刊した。子ども達は、時に応じて心の変化を見せる。そういった時に、楽曲の中からその子どもの状態に合致する部分を抜き出して聴かせてみたり、あるいはその部分を一緒に打楽器を使用して演奏する使用ができるものである。これは、一定のリズムから成る曲よりも、幅広く応用が効く演奏ができるという利点がある。ヴィヴァルディヴァイオリン協奏曲集「四季」と、グリーグ(17曲)及びブラームス(11曲)の曲集である。ヴィヴァルディは、ヴァイオリンのメロディーラインが様々なリズムで作られており、またテーマが春夏秋冬であるため、イメージも湧きやすい。グリーグは、叙情的な旋律と分かりやすいタイトルからイメージを感じる部分が大い。ブラームスは重厚なハーモニーによる、ヴィヴァルディやグリーグとは違った雰囲気を出す。これらを障害のある子どもに聴かせてみて、身体全体を使って踊り喜ぶ様子や一っしょに口ずさむ様子が伺えた。

当初の研究計画は、最終年度にICFの機能を使用して子供達の持つ感覚等を数値化することであったが、研究の進行とともに障害種別は可能でも、その子どもの持つ感性は様々であり、数値化できたとしてもそれは決定的なものではないことが分かり得た。「生きた人間が喜び、楽しみ、活動や参加意欲を芽生えさせるための音楽を、その子どもに応じた形態で演奏し提供することこそが必要である」という確信に至った。音楽療育を実践する国内施設及びスウェーデンストックホルム近郊の施設で調査を行ない、「リズム形態」の重視が最も効果的であることに

結論付いた。今後の課題としては、更に音楽療育を多角的に探求していくことが必要である。

障害種別の枠を超えて一人ひとりの「個」を様々な角度から見つめ、その時の状態に合ったリズムを見極め、曲を選択して演奏したり共に歌ったりすることが参加・活動意欲に繋がり、自立支援に有効的であることが、実践調査から明らかになった。研究成果として、音楽療育現場で使用できる、様々なリズムで構成されている楽曲をピアノ等で演奏し易くした楽譜(図書) 9点、演奏 CD2点、計 11点を出版した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 0件)

〔学会発表〕(計 0件)

〔図書〕(計 9件)

中島龍一、共同音楽出版社、やさしいブラームス、2018、70

ブラームスの名曲をピアノ一人で弾けるようにやさしく編曲した。全 11 曲。

交響曲第 1 番 Op. 68 第 4 楽章 / 交響曲第 3 番 Op. 90 第 3 楽章 / ワルツ Op. 39-15 / ピアノ協奏曲第 1 番 op. 15 第 3 楽章 / ピアノ協奏曲第 2 番 Op. 83 第 3 楽章 / ハンガリー舞曲第 1 番 / ハンガリー舞曲第 4 番 / ハンガリー舞曲第 5 番 / 間奏曲 Op. 118-2 / 弦楽 6 重奏曲第 1 番変口長調 Op. 18 第 2 楽章 / 子守歌 Op. 49-4

中島龍一、共同音楽出版社、やさしいグリーグ、2018、69

グリーグの名曲をピアノ一人で弾けるようにやさしく編曲した。全 17 曲。

「ペールギュント」第 1 組曲 Op. 46 第 1 曲 朝 / 「ペールギュント」第 1 組曲 Op. 46 第 2 曲 オーゼの死 / 「ペールギュント」第 1 組曲 Op. 46 第 3 曲 アニトラの踊り / 「ペールギュント」第 1 組曲 Op. 46 第 4 曲 山の魔王の宮殿にて / 「ペールギュント」第 2 組曲 Op. 55 第 4 曲 ソルヴェイクの歌 / 組曲「十字軍の戦士シーグル」第 3 曲 忠誠行進曲 / 2 つの悲しき旋律 Op. 34 第 1 曲 胸のいたで / 2 つの悲しき旋律 Op. 34 第 2 曲 過ぎし春 / ホルベルク組曲 Op. 40 第 1 曲 前奏曲 / ホルベルク組曲 Op. 40 第 4 曲 アリア / 4 つのデンマーク語の歌「心のメロディ」Op. 5 第 3 曲 君を愛す / ピアノ協奏曲イ短調 Op. 16 第 2 楽章 / 抒情小曲集第 3 集 Op. 43 第 5 曲 愛の歌 / 抒情小曲集第 5 集 Op. 54 第 3 曲 小人の行進 / 抒情小曲集第 5 集 Op. 54 第 4 曲 ノクターン / 抒情小曲集第 7 集 Op. 62 第 4 曲 小川

中島龍一、共同音楽出版社、ヴィヴァルディ ヴァイオリン協奏曲集『四季』Op. 8 和声と

創意への試み、2018、73

オーケストラの作品をピアノ一人で弾けるように編曲した。

中島龍一、共同音楽出版社、ベートーヴェン交響曲第 5 番「運命」 / シューベルト交響曲

第 7 番「未完成」、2017、95

オーケストラの作品をピアノ一人で弾けるように編曲した。

中島龍一、共同音楽出版社、ホルスト「惑星」Op. 32、2017、103

オーケストラの名曲を金管アンサンブル(8 重奏)用に編曲した。編成は、トランペット 2、ホルン 2、トロンボーン 2、ユーフォニウム 1、テューバ 1。火星:戦争をもたらす者、金星:平和を

もたらす者、木星:快樂をもたらす者、天王星:魔術師。各曲、フルスコアとパート譜を収録。

中島龍一、共同音楽出版社、R.シュトラウス交響詩「ツアラトウストラはこう語った」/
ヤナーチェク シンフォニエッタ「ファンファーレ」、2016、55

オーケストラの名曲を金管アンサンブル(8重奏)用に編曲した。編成は、トランペット2、ホルン2、トロンボーン2、ユーフォニウム1、テューバ1。各曲、フルスコアとパート譜を収録。

中島龍一、共同音楽出版社、モーツァルト交響曲第40番/Aイネ・クライネ・ナハトムジーク、2016、75

オーケストラの作品をピアノ一人で弾けるように編曲した。

中島龍一、共同音楽出版社、やさしいドビュッシー、2016、70

ドビュッシーの名曲をピアノ一人で弾けるようにやさしく編曲した。全12曲。

小組曲第1曲「小舟にて」/前奏曲集第1巻第8曲「亜麻色の髪の乙女」・第10曲「沈める寺」/
バレエ音楽「おもちゃ箱」前奏曲・第1場おもちゃ屋“人形の踊り”・第4場幸せになった
あと～エピソード/夢想/子供の領分第6曲「ゴリウオーグのケーキウォーク」/ピアノのため
に第1曲「前奏曲」/忘れられた映像第2曲「ルーヴルの思い出」(ピアノのために第2曲サ
ラバンド)/牧神の午後への前奏曲/ベルガマスク組曲第3曲「月の光」

演奏者の視点に立ち、ピアノ・ソロ曲として位置付けた。オーケストラ用フル・スコア等を基
に、ピアノ初心者でも弾けるようにやさしく編曲した。また、できるだけオクターヴを使わ
ないようにした上で、演奏効果は最大限に表れるようにした。

中島龍一、共同音楽出版社、やさしいバッハ、2016、62

バッハの名曲をピアノ一人で弾けるようにやさしく編曲した。全17曲。

マタイ受難曲 BWV244 コラール「汝をかくも打ち」・「汝が道、汝が心」/協奏曲二短調 BWV974
第2楽章(マルチェッロのオーボエ協奏曲による)/ヨハネ受難曲 BWV245 コラール「ああ主よ、
汝の御使いに命じ」/フルートソナタ変ホ長調 BWV1031

第2楽章シチリアーノ/平均律ピアノ曲集第1巻第1番前奏曲/オルガン・トッカータ二短調
BWV565/協奏曲ト短調 BWV1056 第2楽章ラルゴ/管弦楽組曲第2番口短調 BWV1067 第5曲ポロ
ネーズ/管弦楽組曲第3番 BWV1068 序曲・第2曲アリア(G線上のアリア)・第3曲ガヴォット
/無伴奏チェロ組曲第1番ト長調 BWV1007 前奏曲/無伴奏チェロ組曲第3番長調 BWV1009 プ
レ/オルガン・トッカータ八長調 BWV564 アダージョ/カンタータ第147番 BWV147 コラール「主
よ、人の望みの喜びよ」/カンタータ第140番 BWV140(BWV645)コラール「目覚めよ、と呼ぶ声
あり」

演奏者の視点に立ち、ピアノ・ソロ曲として位置付けた。オーケストラ用フル・スコア等を基
に、ピアノ初心者でも弾けるようにやさしく編曲した。また、できるだけオクターヴを使わ
ないようにした上で、演奏効果は最大限に表れるようにした。

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称:

発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

やさしいバッハ演奏 CD（発売元：共同音楽出版社、録音：株式会社 光洋、2016 年）

上記図書『やさしいバッハ』に収録された全 12 曲の演奏 CD。楽譜を手にした時に、曲のイメージが伝わりやすいように実際の楽譜をピアノで演奏したものを録音。株式会社一音会所有「ひびきホール」使用。

やさしいドビュッシー演奏 CD（発売元：共同音楽出版社、録音：株式会社 光洋、2016 年）

上記図書『やさしいドビュッシー』に収録された全 12 曲の演奏 CD。楽譜を手にした時に、曲のイメージが伝わりやすいように実際の楽譜をピアノで演奏したものを録音。株式会社一音会所有「ひびきホール」使用。

6 . 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8 桁）：

(2)研究協力者

研究協力者氏名：田中博一

ローマ字氏名：TANAKA Hirokazu

研究協力者指名：杉山貴要江

ローマ字氏名：SOMAYAMA Kiyoe

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。